

設計・計画部門



みの うら ひる き
箕 浦 浩 樹

生年月日 1985年三重県生まれ
 最終学歴 2010年神戸大学大学院
 工学研究科建築学専攻
 博士課程前期課程修了
 業務経歴 2010年㈱大林組入社
 現在、同社大阪本店
 プロジェクト設計部主任
 ●担当した主なプロジェクト
 2013年 城南信用金庫中野支店
 2015年 大阪センター
 2016年 KOBELCO摩耶ゲストハウス

■青年技術者のことば

「人に愛される建築を目指して」
 建築の設計を行うことは、誰かの
 “想い” を実現させること。
 クライアントや都市や社会の想い
 を具現化するために、場所・時
 代・求められるプログラムを読み
 解き、それを丁寧に空間へと紡い
 でいく。その中で、このプロジェ
 クトでしか持ちえない固有の個性
 をもった最適解を引き出すこと
 が、設計者としての責務ではない
 だろうか。
 その最適解はそう簡単には出てこ
 ない。いくつものスケッチを積み
 重ね、膨大なスタディを経てぼん
 やりと浮かび上がってくる時もあ
 れば、また原点に立ち帰ってふと
 気づく時もある。この場所にある
 べき空間を追求し、イメージを育
 んでいく。
 そして描いたイメージを図面とし
 て構築していく中で、その線の1
 本1本に対し、一切の妥協を許さ
 ず、設計者として情熱と責任と信
 念をもって、細部まで練り込んだ
 デティールをどこまでも突き詰め
 ていくことで、初めて建築に“想
 い”という命が灯ると考えてい
 る。
 自身と、関わる全ての人の想いを
 込めて実現した建築は、いつまで
 も人から愛されるものになると信
 じて、これからも全力でその線を
 描き続けていきたい。

■すいせん者

伊藤 泰
 (株)大林組 大阪本店 建築事業部
 プロジェクト設計部 部長



城南信用金庫中野支店（2013） 「地域に咲き誇る梅の花」

“人を大切にする”というクライアントの経営理念に基づき、従来の銀行店舗のイメージから脱却した、新たな銀行店舗の提案。建物そのものが銀行イメージを象徴する様に、クライアントのコーポレートシンボルである“梅の花”をモチーフとしたサインウォールをデザイン。地域に開かれ、地域住民に愛される銀行店舗を目指した。



大阪センター（2015） 「場所性とプログラムの融合」

自然豊かな郊外に建つ国内最高レベルの性能を有するデータセンター。背後に広がる豊かな自然環境との調和と、建築が内包する膨大な情報といったプログラムの可視化を、一つのデザインコードで表現した。細分化されたゆらぎのあるデザインを内外装・ランドスケープ・サインデザインに至るまで展開し、統一された空間を形成した。



KOBELCO摩耶ゲストハウス（2016） 「神戸を一望する迎賓空間」

摩耶山の自然と神戸の街並みへの眺望を享受できるゲストハウス。1階は眺望をよりシークエンシャルに導く為に大地に根を張る様なボリュームを構築。対比的に2階は眺望を堪能する為の繊細な空間とし、山並みの中にそっと佇む品格と存在感のある姿を追求した。訪れたゲストが眺望と同時にクライアントのおもてなしの心を体感する、ここだけにしかない迎賓空間を目指した。



(撮影 ヴィブラフォト 浅田美浩)